

はじめてのハムスター

四年 田中宏遼

ぼくは、去年からハムスターを飼育している。今まで、魚や昆虫は飼育したことがあったが、ほにゅう類は初めてだ。

魚や昆虫と一番ちがうと感じた所は、心ぞうの音が聞こえることと、とても温かいことだった。手のひらにのせると、生きていることを実感できた。人間に近い生き物なのだなと感じた。

ハムスターは、身長十センチメートル、体重三十グラムととても小さく、目がくりくりと真ん丸でかわいい。四本の足は短い、その短い前足で、エサをつまんで食べたり、顔を洗ったり、色々なしぐさを見せてくれる。

しかし、仲良くなりたいなと思えばくが飼育ケースに手を入れると、すぐににげだしたり、逆にかみついたりすることが多かった。どうしてなのか分からず困ったので、ぼくは飼育方法の本を買った。その本によると、ハムスターはてきにおそわれる立ち場なので、いつもおびえている生き物だと言っていた。

本を読んだ後、さっそく名前をよんでから手を入れることにした。しかし、なかなか入れなかった。

図かんに、おいにびんかんと書いてあったので、次は、手ぶくろをしてから手を入れてみた。少しずつ近づいてきてくれたが、いっしょに遊ぶまではできなかった。

ハムスターをしばらく観察した所ひまわりの種が好きなのに気付いたので、その次は、手ぶくろをした手にひまわりの種をのせてからケースの中に手を入れてみた。

すると、ハムスターは、おいをかきながら近づいてきてくれた。さらに、手の上のひまわりの種を食べてくれた。とてもうれしかった。

その後、毎日一回は、同じように手ぶくろをした手にエサをのせて、手のひらの上でエサをあげてみた。すると、なれてきたのか、手のひらの上でねころがったり、丸くなったり、色々なしぐさを見せてくれるようになった。

今では、手ぶくろなしでも手のひらの上のエサを食べたり、あおむけにねたりしてくれる。あおむけになり、おなかをだしているときは、一番安心しているときらしい。

ペットはしゃべることができない。また、人間が良いと思っても、ペットには、いやだと感じる行いも多い。今回ハムスターを飼育して気付いたことは、飼育する前に本を読んで勉強することはとても大切だということだ。そして、仲良くなりたいときは、あせらずに少しずつ近づいていくことが必要だと分かった。

これから先、もっと他のペットと出会うかもしれない。そのときは、今回まなんだことをわすれずに、そして最後まで責任を持って、仲良くペットとすごしたいと思う。